

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	平塚研究所 研究新棟 建屋計画	階数	地上4階
建設地	神奈川県平塚市東八幡五丁目1474番外4筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	160 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,460 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2024年3月25日
敷地面積	2,260 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社安藤・間一級建築士事務所
建築面積	1,327 m <sup>2</sup>	確認日	2024年3月26日
延床面積	4,655 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社安藤・間一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	・ 使いやすく快適な建物、維持管理が容易な建物、配慮されている。	<b>その他</b> ・ 特に無し。
<b>Q1 室内環境</b>	・ 内装材はF☆☆☆☆品を採用、十分な換気量、全館禁煙など、空気を健全に保てるようにしている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地周辺を緑化することにより、良好な歩行者空間の景観を形成している。
<b>LR1 エネルギー</b>	・ 外皮に断熱性の高いALC版やLow-eガラスを採用、断熱施工することにより建物の熱負荷を低減している。 ・ 太陽光発電を採用し、自然エネルギーの活用に取り組んでいる。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・ 雨水浸透施設により、雨水排水負荷の低減に取り組んでいる。 ・ 光害対策として、光害対策ガイドラインチェックリストの項目の過半を満たしている。
<b>Q2 サービス性能</b>	・ 快適性や利便性の向上のため、開放感がある天井高や十分な広さの執務スペース、リフレッシュスペースを確保している。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	・ 自動水栓や節水型便器の採用により、節水等の省資源化に取り組んでいる。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される